

ソウル宣言から 2018 年ビルバオ大会までの概略

- ① ソウル宣言
- ② 2014GSEF ソウル大会
- ③ 2016GSEF モントリオール大会
- ④ 2018GSEF ビルバオ大会

1. ソウル宣言

2013 年 11 月 5～7 日に韓国ソウルで開かれたグローバル社会的経済フォーラムで採択された、新しい世界変革への国際連帯を呼びかけた宣言文。2011 年に韓国ソウル市長に就任した朴元淳（パク・ウォンスン）氏のイニシアティブ、カナダ・コンコルディア大学のマーガレット・メンデル教授らの協力により原案が作られ、ボローニャ（イタリア）など 8 都市自治体、シャンティエ（カナダ）など 9 団体の参加のもとに採択された。

宣言は、今日の世界的な経済危機、環境破壊、格差社会化、紛争などは世界的な金融資本とそれを後押しする政策に由来しており、これに対抗する 10 項目の具体的かつ実践的な提案と行動を呼びかけている。その特徴は、利潤目的や国家利益ではなく、人々のための人びとの参加型民主主義による社会的経済の形成発展を呼びかけ、これを支持する地方政府と地域コミュニティとの新しい協働を軸にした社会運動こそ希望の灯であり、世界の人びとの知恵、経験、制度設計、人的交流などを提案しているところにある。

2. 2014GSEF ソウル大会

グローバル社会的経済フォーラム（GSEF）ソウル大会は、前年開かれたフォーラムで採択された「ソウル宣言」に賛同する協同組合や NPO など社会的経済団体、自治体、国際機関、研究者など延べ約 4000 人の参加のもと、2014 年 11 月 17 日～19 日に韓国ソウルで開かれた。この大会では「ソウル宣言」を実践するための国際組織のアイデンティティ（基本的な目標と使命）及び会員組織、機関構成、財政などの約束ごとを定めた「グローバル社会的経済フォーラム（GSEF）憲章」が採択された。これによって GSEF は恒常的な国際連帯のネットワークとしての体制を確立した。会員は正会員、準会員、名誉会員。機関は総会、運営委員会、事務局、議長都市。初代の議長都市はソウル市、共同議長は朴元淳氏と牧師のソン・ギョンヨン氏（ソウル社会的経済代表）が就任した。大会では全体会議の他「社会的経済と自治体」など 12 の分科会が開かれた。日本からは約 100 名が参加した。

3. 2016GSEF モントリオール大会

グローバル社会的経済フォーラム（GSEF）モントリオール大会は、2016 年 9 月 8～10 日にカナダ・ケベック州モントリオールで全体会議が約 1500 人が参加して開かれた。はじめて発祥地であるアジア・韓国を離れて北米の都市であるモントリオールへは北米、中南米などからの参加もあり、これらの地域の実践を反映した「連帯経済」と「社会的経済」の融合を唱え「社会的連帯経済」と呼ぶ事を含む「モントリオール宣言」を採択した。これは「ソウル宣言」を継承発展させるものと意義づけられている。また国連 2030「アジェンダ」やハビタットⅢ「ニュー・アーバン・アジェンダ（新都市アジェンダ）」の実行をも重ねたものである。フランスやスウェーデンの先進事例も報告され、全体会、ワークショップなどにおいて GSEF が地理的

にもテーマにおいても全世界的に広がっていることを示した。日本からは「ソウル宣言の会」から 33 名、労働者協同組合連合会から 1 名が参加した。

4. 2018GSEF ビルバオ大会

グローバル社会的経済フォーラム (GSEF) ビルバオ大会は 2018 年 10 月 1~3 日、スペイン・バスク州ビルバオで 84 カ国から約 1700 名が参加して行われた。大会の主題は“社会的価値と包摂的で持続可能な地域創造のための競争力”で、競争力について市場競争に巻き込まれる懸念する論議があった。大会そのものは基礎自治体と市民社会の協働による実践の重要性と、そのための革新(イノベーション)が数多く語られた。労働者協同組合が強固な力を持つモンドラゴン協同組合企業グループをはじめ、協同組合と地域民族主義、独自の文化に注目が注がれた。初めてヨーロッパで開かれたこの大会にはアフリカからの参加者も多く、国連社会経済研究所、ILO、モンブラン会議、RPES (大陸間ネットワーク) など国際組織の参加もあった。総会では憲章が改訂され、より多くの都市、団体が参加し易くなるよう会員として新たに「パートナー」を設けた。日本からは「ソウル宣言の会」が事務局となった日本実行委員会から四四名、労働者協同組合連合会から 3 名が参加した。